

## 公認心理師の職責

《履修上の留意事項》出席は原則としてGoogle Formで取ります。出席の締め切りや学習成果の提出物の締め切りを守るようになることは自律性を養う上で重要です。また失格になる前の事前の警告はしませんので、自己管理能力を養うよう努めてください。

《担当者名》 富家 直明 (tomie@hoku-iryo-u.ac.jp)

### 【概要】

国家資格としての公認心理師として求められる職業的責務を学び、ふさわしい資質や能力を身につけるように自己研鑽を積みながら実践に励むことができることを目指した科目である。主体的、対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の体験を通して、公認心理師の法的位置付け、法的義務と倫理、期待される社会的役割、安全の確保、情報の適切な取り扱い、保健医療、福祉、教育、司法、産業・労働分野における公認心理師の業務、自己発見や課題解決能力、生涯学習への準備、多職種・地域連携について学び、将来の公認心理師に必要なコンピテンシーとリテラシーを身につける。

### 【学修目標】

自律的な学習態度を養う。  
 公認心理師の法的位置付け、法的義務、倫理を知る。  
 情報の適切な取り扱いを知る。  
 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野における公認心理師の業務を知る。  
 公認心理師として生涯にわたって、知識・態度・技能を研鑽するために必要な課題の発見・解決方法、自己研鑽の方法について理解する。  
 公認心理師としての多職種連携の意義と課題について学び、地域連携の重要性・あり方について理解する。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス 公認心理師の役割	公認心理師法を概観しつつ、公認心理師の定義と社会的役割の理解を図る。心理的アセスメント（心理検査）、心理学的支援（カウンセリングや心理療法）、関係者への支援、心の健康教育の4つの業務を知る。公認心理師資格の取得に至るプロセスを知る。	富家 直明
2	公認心理師に必要なコンピテンシー	心理職のコンピテンシー、心理職の成長モデル、省察的実践、省察的-科学者実践家モデルなどを理解する。	富家 直明
3	心理支援の専門職になるために	心理支援と自己理解、自己責任と自分の限界、支援動機、価値観の多様性、支援者のメンタルヘルスなどを理解する。	富家 直明
4	心理支援の専門職として働くために	公認心理師としての専門職教育、公認心理師の実践的な学び、公認心理師の生涯教育、スーパービジョン、資質向上の責務、心理職のキャリア発達などを理解する。	富家 直明
5	公認心理師の法的義務と倫理	公認心理師の責任と法的義務を把握する。名称独占、信用失墜の禁止、多重関係、秘密保持義務、関係者との連携、主治医の指示について理解する。倫理的ジレンマを題材に公認心理師の倫理について考える。	富家 直明
6	支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る	安全確保、価値に基づく医療（Value-Based Practice：VBP）、自己決定権、業務としての心理支援、家族との連携、アドバンス・ケア・プランニング、リスクアセスメントと危機介入、リファーが必要な時の動き方などを知る。	富家 直明
7	情報の適切な取り扱い	個人情報の取り扱いと保護、インフォームドコンセント、秘密保持義務、プライバシー保護、適切な情報管理、業務に関する記録の適切な保管、秘密保持と専門家間の情報共有の両立などについて理解する。	富家 直明
8	チームや地域で連携して働く	公認心理師に求められる連携について考える。多職種連携実践（IPW）、多職種連携教育（IPE）価値に基づく医療（Value-Based Practice：VBP）を知る。地域架橋的能力の育成に必要な事柄を理解する	富家 直明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		る。支援に関わる専門職と組織及び、医療・福祉・教育・司法・産業の場面で多職種協働ができるために必要な資質や能力について理解する。	
9	保健医療分野で働く	保健医療分野における公認心理師の職場の紹介と、保健医療分野において求められる役割、知識、スキル、自殺予防、チーム医療を理解する。	富家 直明
10	福祉分野で働く	高齢者、児童福祉領域など多様な福祉の職場の紹介と、虐待への対応、福祉分野において求められる役割、知識、スキルを理解する。	富家 直明
11	教育分野で働く	スクールカウンセラーの職場の紹介と教育現場で求められている公認心理師の役割を理解する。	富家 直明
12	司法犯罪分野で働く	司法犯罪分野の職場の紹介と公認心理師の役割を理解する。	富家 直明
13	産業労働分野で働く	産業労働分野における主な職場の紹介と、公認心理師の役割を理解する。	富家 直明
14	公認心理師国家試験を考える	公認心理師国家試験の試験問題を参照し、学修到達度の自己点検を行う。	富家 直明
15	公認心理師国家試験を考える	これまでの学びの内容を振り返り、学修到達度の自己点検を行う。	富家 直明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

出席フォームによる感想や質問の質・量の評価（10%）、レポート（20%）、定期試験（70%）で評価する。評価の観点は、本授業に関わる、知識・理解、獲得した知識等を活用し、新たな課題に適用し課題を解決する能力、態度・志向性、専門職業人としての倫理観を含む。

【教科書】

公認心理師スタンダードテキストシリーズ「公認心理師の職責」（ミネルヴァ書房）

【参考書】

誠信 心理学辞典 [ 新版 ]（誠信書房）

【備考】

講義内容は日本心理学会、公認心理師養成大学教員連絡協議会が策定した公認心理師大学カリキュラム標準シラバスに従う。

【学修の準備】

【学修の準備・事後学修】（合計240分）本科目は2単位科目であり、1回につき4時間の授業時間外学習が必要です。生成AI（Gemini等）を「専属の家庭教師」として活用し、以下のサイクルを推奨します。

1. 予習（約90分）： テキストや参考資料を読む。生成AIを活用して講義テーマの「社会的背景」や「関連キーワード」を調査し、自分なりの興味や関心を深める。
2. 事後学修（約150分）： テキストや参考資料を読むほか、図書館を活用して広く参考文献にあたる。講義内容をAIに要約させる。AIに「理解度確認クイズ」を作成させて回答し、間違えた箇所をさらにAIと議論して解消する。TA・教員への質問をしたり意見交換をすることも推奨します。なお、学修活動の証明として、AIとの対話ログ（履歴）や、AIの回答を元に作成した独自の学習ノートの提出を求めたり、感想を聞くことがあります。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

- DP 1 . 心身の健康を保持し学修を継続できる基本的態度と知識・技能を身につけている。
- DP 4 . 公認心理師の活動に関連する知識・技術を修得している。
- DP 5 . 対人支援における多職種連携の重要性を認識している。
- DP 7 . 社会の変化を見通し、自己のキャリアを構築する力を修得している。
- DP 8 . 生命の尊重と個人の尊厳を実現する法と倫理に関する理念を有し社会的に実践する力を有している。
- DP 9 . SDGs の視点を取り入れ、多様性や包摂性に関する理解を踏まえた社会的貢献をする力を有している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

**【実務経験】**

冨家直明（公認心理師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

公認心理師としての臨床・研究・社会貢献活動の成果を反映させた講義内容となっている。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している